

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200642		
法人名	医療法人社団崇仁会		
事業所名	洞戸グループホーム天津風		
所在地	岐阜県関市洞戸大野852-1		
自己評価作成日	令和5年12月17日	評価結果市町村受理日	令和6年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhou_detail_022_kani=true&li_gyosyoQd=2170200642-006&servi_ceQd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年2月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの分類も変わり、面会を基本的には制限なしで行えるようにしている。その分体調管理等には気をつけて消毒、換気など適宜行っている。医療連携を充実させ、グループホームでは珍しい看取りもさせていたが、日々のサービスについても週2回の入浴しか無い施設が多い中、少しでも多く入れるようにしている。木造建築の為、防災訓練にも力を入れている。真夏と真冬以外は毎月避難訓練を実施し、全職員が対応できるようにしている。職員のレベルの均一化を図る為、研修を多く行い、介護福祉士、喀痰吸引研修などの資格取得ができるように支援している。介護業務の簡略化を目指し、すぐろくというペーパーレスの記録媒体を使用している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あなたらしくわたしらしく」という理念が実施されている事業所である。職員がストレスを抱えて就業しないように、人員配置より多く職員を配置。管理者は職員の意見を否定せず、受け入れて共に考える姿勢をとっている。働きやすい環境で職員はそれぞれに研修やキャリアアップに取り組み、専門性の向上に取り組んでいる。その結果、職員に心身ともにゆとりが生まれている。利用者ひとりにつき職員が2名で入浴介助をできたり、週に3日の入浴が実施できたりしている。利用者に寄り添う時間が確保でき、利用者や家族の意向にじっくりと耳を傾け「ノーと言わない介護」に取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの時間にその日のスタッフで理念を唱和している。理念は玄関に掲示している。	「自然とともに」「あなたらしくわたらしく」の理念を毎日職員唱和している。環境に配慮した洗剤を利用し、ごみを減らす取り組みがある。利用者の望むケアが実施できるように、常に職員間で話し合われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが緩和されてから、地域の方と運営推進会議に参加してもらったり、行事に参加してもらっている。(和太鼓等)	職員は地域の清掃活動、祭りなどに参加している。近所の方は、事業所の庭木の手入れ、草刈り、太鼓演奏会の行事に参加している。互いに事業所を行き来できる関係性を築いている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容を施設長と職員が把握し、スタッフと情報共有してサービス向上に活かす取り組みをしている。	運営推進会議にて、身体拘束防止についての意見を求めている。アドバイスをもらい、職員会議で共有している。家族が参加しやすいように、開催時間を工夫している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡は密にとっており、運営推進会議により取組みを伝えている。	疑問があると、気軽に市町村に電話やメールで確認している。市主催の研修会や、会議にも出席し、意見交換を行っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を年4回行っており、正しい理解に努めている。	年に4回身体拘束防止委員会を開催している。スピーチロック、ドラッグロックなどの弊害について職員に会議で研修を実施している。管理者は日ごろから職員に話しかけ、身体拘束を行わない姿勢を示している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を年4回行っており、学ぶ機会を持っている。研修を行い防止に努めている。	年4回、虐待防止委員会開催時に研修会を実施している。虐待の芽チェックリストを職員に実施し、集計結果を会議で報告している。ストレスをためない環境作りに取り組み、職員配置を規定より多くしている。職員にはゆとりが生まれ、虐待防止にもなっている。	

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて制度について学ぶ機会はあるが実際に活用した経験はない。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	同意と評価を定期的に用紙に記入していただくようにして理解と納得を得るように努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を定期的に設けて情報を交換している。	利用者、家族の要望には「ノー」と言わず、職員間で話し合って要望に応えるようにしている。面会時だけでなく、LINEを使用して気軽に意見を出せるように配慮している。年に1回、家族むけにアンケートを実施し結果を集計して把握している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回のカンファレンスで意見を話し合い解決し職員面談をして意見や提案など聞いている。管理者は職員の意見を大切にすることを心掛けている。定期的に面談を行い意見や悩み事など聞いている。利用者が楽しめる行事や献立、職務内容など職員の意見を反映している。	職員は気軽に管理者に意見を言えている。職員の要望により、使いやすい車いすを導入したり、環境整備を行ったりしている。管理者は職員の意見は基本否定せず、受け入れて自主性を養っている。職員の意見により電子カルテを導入し、業務負担軽減に繋がった。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員が持っている能力を協議して解決に取り組んでいる。	職員配置にゆとりがあり、希望通りに休みが取れている。急に休みが必要になっても問題なく対応できている。有給の取得率も高く、離職率は低い。話し合いで職員の希望に沿った勤務時間などを実施している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員には必ずOJTを行い喀痰吸引リーダー研修を受ける機会を作っている。	喀痰吸引等研修、介護実務者研修の受講奨励している。管理者は、職員面談でキャリアアップについて意向を確認し、研修を受けられるように支援している。必要な研修は法人が費用を負担している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	OJTや研修などを受けられるよう調整し、サービス向上を図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや調理補助など本人のやる気を引き出せるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケア担当者を入居者一人ひとりにつけ、本人や家族、職員と検討しその人らしい暮らしを心掛けている。	居室に入った時や寝る時、風呂に入っている時など一人になった時に要望を聞いている。自分の意思を話すことができない人は、家族から聴いたり、本人の表情に注意したりして把握している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様に個別担当がつき、本人等から意見を伺い、他職種で協力して介護計画を作成している。	3か月毎に介護計画書を作成している。ケアマネジャーが家族に面談や電話でニーズを確認している。介護職員の各担当者が記入したモニタリングシートを活用し、多職種に意見や質問を求めながら、介護計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスやMCS等を活用し、職員間で情報共有している。	介護記録を電子化しタブレット・パソコン入力をしている。変化がある際、看取り期などにはコメント直接記入し、職員間で共有している。家族には随時、状態確認の電話を入れている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	電話やラインを利用し、ご家族と連絡している。2か月に一度天津風便りを送っている。	受診は家族の同行が基本であるが、無理な時は、看護師が同行している。必要な買い物も家族で対応が難しい場合は実施している。個々の希望に応じ、オンラインで孫の結婚式に参加を支援した事例もある。	

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナも5類になり、家族、地域の方との協力も少しずつ増えてきました。入居者様のニーズにも対応し、楽しく暮らせるよう努めた。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族の希望を聞き、適切な医療を受けていただくように支援している。	本人・家族の意向によりかかりつけ医を変更している。週1回の訪問診療がある。定期検診等は、家族の付き添いが困難な時は看護師が同行し、結果を家族に報告している。希望時、歯科の訪問診療も実施している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護職中心に病院関係者との情報交換を図り、退院の時もできるだけ早く対応をしている。	入院から2日程経過後、家族に利用者の状態を確認している。早めに再入居の受け入れ可能な目安を家族に説明し、本人と家族の希望に応じられるよう、病院と連携し情報交換をしている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時は家族に連絡をし、これからのについての説明を十分にし、職員の中でも情報を共有している。(MCS、申し送りにて)ターミナル期には本人の状況の変化に応じてケアプラン作成、情報提供され、方針が決められている。	理念のもとに、最期まで本人らしい生活が送れるように、普段からニーズを把握している。折に触れ、看取り介護について看護師が家族に説明を行っている。看護師が多く職員配置されており、介護職員は相談しながら看取り介護を実施できている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時事故発生時は責任者、看護師に報告できている。訓練は出来ていないがAEDの講習会は行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回避難訓練を行っている。緊急連絡網を作り、誰もが対応できるようにしている。避難訓練の日は近隣住民に電話で実施することを伝えている。	夜間想定を含め避難訓練、土砂災害訓練、情報伝達訓練を定期的に行っている。訓練時は近隣住民に訓練実施の電話連絡をしている。運営推進会議でも避難訓練に参加の呼びかけを行っている。実際に避難所までの避難訓練はまだ実施できていない。	近隣住民の協力を含め、避難場所までの避難訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや居室での対応はドアを閉めて対応し、丁寧な言葉や笑顔で対応できている。	排泄の話は小さな声で話すように心がけている。気づきがあれば、職員同士声をかけてフォローを行っている。年1回プライバシーについての研修会を実施している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとって希望要望を聞くようにしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休息など希望があれば無理に起こしたりせず支援している。お化粧品なども家に居た時のようにできる様支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ一口大や刻みなど、形態を合わせて提供している。食事量もその方に合わせている。	食事の下ごしらえ、お茶のパック詰め、おしほり配りなど利用者と一緒にやっている。リクエストには季節ごとの行事食や、週に2回程度、手作りおやつ作りで応えている。食事量が減ってきた方は、食べたいものを用意し提供している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個人に合わせた摂取ができるようにしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後30分経過したら口腔ケアを行い清潔保持を意識しケアしている。	訪問診療で歯ブラシの使い方の指導を受け口腔ケアを行っている。自分でできない人には、口腔ガーゼ等を使い残渣物がないか確認している。歯間ブラシを使用したり、起床時も口腔ケアを実施したりし、口腔内の清潔保持に取り組んでいる。	

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を心掛けているが、残存機能は生かしきれしていない。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの状態、ADLを考慮し、安全で無理のない入浴方法を心掛けている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	顔を見てしんどそうなら横になってもらっている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わったり、便秘の人の漢方は飲んだり飲まなかったりするので気をつけている。	誤薬を防ぐために複数職員で確認する仕組みがある。飲み込みが悪い人は、薬を飲みやすいように工夫している。内容に変更があれば申し送り職員で共有している。服用している薬品名、対象の病名、副作用、服薬時間など職員が分かりやすいように、表示をしている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべくできるよう努力はしているが、職員が少ない時はできていない時もある。	職員から声掛け、脳トレを行ったり、将棋、ボール遊びなど行っている。ほうきを使い掃除や、洗濯物たたみ、職員と一緒にゴミ出しに行く人もいる。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出られる時は出れているが、寒すぎたり暑かったりする時はできていない。行事等で出かけた。	家族より外出の希望があれば依頼している。外出できる時は、日常的に散歩に出かけている。夏には近隣の花火大会を観に外出した。近くの喫茶店への外出も予定している。	

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は全員していない。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は時折くらいでほとんどできていない。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ログハウス風の建物で、窓からは四季が感じられ、ホールも開放的である。	1日3回換気をしている。寒暖の差が出ないように、天井のプロペラを使用している。昼食時には、静かな音楽をかけ、ソファでゆっくりくつろぐことができる。花を飾ったり、ひな人形を飾るなど季節感が感じられる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人意思を尊重し、プライベート空間は確保されている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた思い入れのある家具などを設置し、安心した居心地の良い環境に努めている。家族写真などを貼り、家庭の雰囲気を作っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレマークを目線に合わせてたりして、慌てたり不安の内容に自立した生活を送れるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200642		
法人名	医療法人社団崇仁会		
事業所名	洞戸グループホーム天津風		
所在地	岐阜県関市洞戸大野852-1		
自己評価作成日	令和5年12月17日	評価結果市町村受理日	令和6年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoOd=2170200642-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年2月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの時間にその日のスタッフで理念を唱和している。理念は玄関に掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが緩和されてから、地域の方と運営推進会議に参加してもらったり、行事に参加してもらっている。(和太鼓等)		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容を施設長と職員が把握し、スタッフと情報共有してサービス向上に活かす取り組みをしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡は密にとっており、運営推進会議により取り組みを伝えている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を年4回行っており、正しい理解に努めている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を年4回行っており、学ぶ機会を持っている。研修を行い防止に努めている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて制度について学ぶ機会はあるが実際に活用した経験はない。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	同意と評価を定期的に用紙に記入していただくようにして理解と納得を得るように努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を定期的に設けて情報を交換している。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回のカンファレンスで意見を話し合い解決し職員面談をして意見や提案など聞いている。管理者は職員の意見を大切にすることを心掛けている。定期的に面談を行い意見や悩み事など聞いている。利用者が楽しめる行事や献立、職務内容など職員の意見を反映している。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員が持っている能力を協議して解決に取り組んでいる。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員には必ずOJTを行い喀痰吸引リーダー研修を受ける機会を作っている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	OJTや研修などを受けられるよう調整し、サービス向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや調理補助など本人のやる気を引き出せるようにしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケア担当者を入居者一人ひとりにつけ、本人や家族、職員と検討しその人らしい暮らしを心掛けている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様に個別担当がつき、本人等から意見を伺い、他職種で協力して介護計画を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスやMCS等を活用し、職員間で情報共有している。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	電話やラインを利用し、ご家族と連絡している。2か月に一度天津風便りを送っている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナも5類になり、家族、地域の方との協力も少しずつ増えてきました。入居者様のニーズにも対応し、楽しく暮らせるよう努めた。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族の希望を聞き、適切な医療を受けていただくように支援している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護職中心に病院関係者との情報交換を図り、退院の時もできるだけ早く対応をしている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時は家族に連絡をし、これからのについての説明を十分にし、職員の中でも情報を共有している。(MCS、申し送りにて)ターミナル期には本人の状況の変化に応じてケアプラン作成、情報提供され、方針が決められている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時事故発生時は責任者、看護師に報告できている。訓練は出来ていないがAEDの講習会は行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回避難訓練を行っている。緊急連絡網を作り、誰もが対応できるようにしている。避難訓練の日は近隣住民に電話で実施することを伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや居室での対応はドアを閉めて対応し、丁寧な言葉や笑顔で対応できている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとって希望要望を聞くようにしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休息など希望があれば無理に起こしたりせず支援している。お化粧品なども家に居た時のようにできる様支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ一口大や刻みなど、形態を合わせて提供している。食事量もその方に合わせている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個人に合わせた摂取ができるようにしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後30分経過したら口腔ケアを行い清潔保持を意識しケアしている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を心掛けているが、残存機能は生かしきれしていない。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの状態、ADLを考慮し、安全で無理のない入浴方法を心掛けている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	顔を見てしんどそうなら横になってもらっている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わったり、便秘の人の漢方は飲んだり飲まなかったりするので気をつけている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべくできるよう努力はしているが、職員が少ない時はできていない時もある。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出られる時は出れているが、寒すぎたり暑かったりする時はできていない。行事等で出かけた。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は全員していない。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は時折くらいでほとんどできていない。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ログハウス風の建物で、窓からは四季が感じられ、ホールも開放的である。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人意思を尊重し、プライベート空間は確保されている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた思い入れのある家具などを設置し、安心した居心地の良い環境に努めている。家族写真などを貼り、家庭の雰囲気を作っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレマークを目線に合わせてたりして、慌てたり不安の内容に自立した生活を送れるよう工夫している。		